



楊谷寺 柳谷観音

京都・西山三山の一つ



楊谷寺 本堂

基本情報

開創	大同元年（806）	開山	延鎮僧都
所在地	京都府長岡京市	霊場	新西国霊場第17番
本尊	十一面千手千眼観世音菩薩	主な特色	眼病平癒の信仰、独鈷水、浄土苑、花手水

概要・歴史

楊谷寺は、京都府長岡京市の西山にたたずむ寺院で、「柳谷観音」の名で親しまれています。

寺伝によれば、大同元年（806）、延鎮僧都が夢のお告げに導かれ、柳の木々に囲まれた谷で観音さまを感得したことに始まると伝わります。以来、眼病平癒を願う人々の篤い信仰を集めてきました。

弘仁2年（811）には空海が参詣し、目の見えない子猿のために祈祷したという伝承があります。この物語にゆかりのある霊水「独鈷水（おこうずい）」は、現在も眼病平癒を願う祈りの伝統の中心となっています。霊元天皇が眼病から回復されたのち、この水が宮中へ献上されるようになったと伝えられています。

見どころ

信仰の伝統、建築、庭園、四季折々のしつらえが一体となり、今も祈りが息づく寺院の姿を形づくっています。

01

本尊と今に続く祈りの伝統

本尊は十一面千手千眼観世音菩薩です。人々の苦しみを見通し、さまざまな形で救いの手を差し伸べる慈悲深い存在として信仰されています。寺院において祈りは今も中心にあり、とりわけ眼病平癒を願う信仰が大切に受け継がれています。



浄土苑

02

浄土苑と上書院

浄土苑は、水、石、周囲の山の地形を生かして造られた風光明媚な庭園です。皇室とのゆかりを持つ格調高い空間である上書院からも眺めることができます。建築と庭園が一体となり、季節とともに表情を変える静かな観賞のひとつときを生み出します。



季節の花手水

03

花手水と四季

楊谷寺は、現在では季節の花々を手水鉢に浮かべる「花手水」でも広く知られています。紫陽花、紅葉をはじめとする草花が一年を通して境内に新たな彩りを添え、参拝者は清めの営みと美しさとともに感じることができます。

04

独鈷水と皇室とのご縁

霊水「独鈷水」は、空海にまつわる伝承と、眼病平癒を願う信仰に深く結びついています。その名声は宮中にも届き、境内には皇室の庇護と歴史的なつながりを伝える建物や文化的な遺産も残されています。